

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

| | |
|------------------------|--|
| <p>団体名</p> | <p>社会福祉法人厚生館福祉会</p> |
| <p>取組の名称</p> | <p>こども食堂事業運営 学童ホール事業運営</p> |
| <p>実施場所</p> | <p>川崎市麻生区王禅寺東 5-3-53 王禅寺しらゆり保育園 川崎市多摩区菅稲田堤 1-10-2 愛児園学童ホール</p> |
| <p>対象地域</p> | <p>川崎市立東柿生小学校在籍の児童 川崎市立菅小学校および近隣小学校在籍の児童</p> |
| <p>対象地域の 特色・課題</p> | <p>こども食堂：生活保護受給家庭や保護者が精神的疾患を持っている家庭が多い。その為、地域児童の生活や学習について、家庭や学校、行政以外にも見守れる場所が必要であると感じる。 学童ホール：保護者の就労などによる留守家庭児が多く、また、近隣に法人内に保育所を7施設運営しているため連携を取ることで、児童・保護者共に慣れ親しんだ場所での保育ができる。</p> |
| <p>取組の趣旨・目的</p> | <p>こども食堂：児童に学習支援と食事の提供を行い、生活の安心・向上を目指す。 学童ホール：保護者の就労などによる留守家庭児に遊び及び生活の場を提供し、児童の健全な育成を図ることを目的とする。</p> |
| <p>実施内容・実施スケジュール</p> | <p>① こども食堂 月2回程度、土曜日の10時～12時に実施（全23回実施） ・10時から学習の時間とし、指導員が少人数ごと丁寧に児童の学習を見ていく。 ・適度に休憩時間や遊びの時間を設け、その中で児童同士の交流などが図れるように配慮していく。 ・児童と職員が食事を一緒に取れるようになり、安全 ・衛生管理を徹底した保育園の栄養士が調理し提供する、栄養バランスの取れた食事を提供する。 ② 学童ホール (1) 子どもたちが楽しく、安心して過ごせる環境をつくる。 (2) 異年齢の集団の中で、子ども同士の関わりを大切にし、成長を見守</p> |

| | | | |
|------------------|---|------------------------------|--|
| | <p>りながら必要に応じて適切な援助、指導をしていく。</p> <p>(3) 問題が起きた場合には子ども達の気持ちを大切に、ご家族と連携を図りながら一人ひとり丁寧に対応していきます。</p> <p>(4) 遊びや当番活動を通じて生活習慣を身に着ける。</p> <p>(5) 自立性や協調性を育てながら、仲間作りや集団生活の楽しさを養う。</p> <p>(6) 地域との関わりを積極的に行い、地域に開かれた学童としての運営活動を行う。地域の町内会や子ども会の行事に参加し、(夏まつり、秋まつり、フリーマーケット等)、地域との交流を行っている。</p> | | |
| 参加者の年代 | <p>① こども食堂：小学生（受入体制が整えば中学生も可）</p> <p>② 学童：小学生</p> | <p>定員 (1回あたり)</p> | <p>① こども食堂：20名</p> <p>② 学童ホール：86名</p> |
| 実施頻度 | <p>① こども食堂：月に2回 (8月は月1回予定)</p> <p>② 学童：平日(月～金) 13:00～18:00 短縮授業日・長期 休校日・臨時休校日 8:00～18:00 延長保育 18:00～18:50</p> | <p>活動日数 (年間)</p> | <p>① こども食堂：15日</p> <p>② 学童ホール：239日</p> |
| スタッフ体制 | <p>① こども食堂・②学童 教員免許や小学校での教員経験者が登録しており、1回につき平均4～5名の指導員が出勤し、児童の指導、支援にあたっている。</p> | | |
| 連携する団体・ 連携の手法 | <p>① こども食堂 かわさきさくら児童家庭支援センターが窓口となり、登録手続きなどを行っている。川崎市立東柿生小学校と連携。案内を配布し、支援が必要な児童家庭には個別に声掛けをしてもらうこともある。地域の主任児童委員に実施内容を見学して頂き、実施への理解と、地域への広報を担ってもらっている。</p> <p>② 学童ホール 近隣に法人が運営する保育所が7施設あるため、情報共有など様々な連携を取ることが出来る。必要に応じて在室児の小学校と連携。入学直後の1年生には、小学校と連携を取り、スタッフが小学校まで迎えに行き、学童施設まで引率する期間を設けている。</p> | | |

| | |
|----------------------------|---|
| <p>取組実施により 見込まれた効果</p> | <p>① こども食堂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の習得が付くとともに、しっかりと見守られ、分からないことはすぐに聞き、教えてもらえたり、褒めてもらえる経験が子どもたちにとって喜びと自信につながる。 ・食事はおなか一杯食べることができ、普段食べない食材を経験できる良い機会となる。 ・この活動が子どもたちの拠り所となったり、職員としても家庭環境が気になる子どもの見守りが出来る。 <p>② 学童ホール</p> <p>保護者の就労などによる留守家庭児に、遊び及び生活の場を提供し、児童の健全な育成を図ることを目的とすることで、子どもたちが楽しく安心して過ごせるような環境をつくる。また、異年齢との関わりや地域との関わりを通して子どもの成長を見守る。地域の行事などへ積極的に参加することで、地域の方々とのつながりを深めて、お互いに見守り合う関係作りに貢献している。スタッフは3名が元小学校教諭、保育士1名、他3名、大学生アルバイトは4～5名程度がシフトにより勤務している。保育士資格を取得し卒業後に法人内の保育所に、正職員として入職し活躍している。</p> <p>また、元小学校教諭スタッフにおいては経験豊富であることから保護者からの相談も多く、保護者からの信頼や満足度が高い。</p> <p>夏休み等の長期休暇期間には、朝からの受入れ態勢を整えて近隣の市営プールや市営の図書館などへ出かけて地域の子どもの交流を図ることもできる。</p> <p>学童ホール・こども食堂の両事業を共通して、子どもの成長を感じることができたり、子どもが施設へ来ることを楽しんでくれることが、職員自身のモチベーションを高め、事業に対するやりがいにつながっている。</p> |
|----------------------------|---|